



○山崎尚子, 笹山由紀子, 北澤郁恵, 倉田昌明, 濱田悦昌, 堀井郁夫

ファイザー製薬(株)中央研究所

【目的】D-Dimer は、血液凝固・線溶系異常を評価できるマーカーとされている。最近、実験動物における D-dimer の測定について、ヒト用 Latex 凝集法キットを使用したラット血漿（使用キット; D-Di TEST, Roche Diagnostics; 以後 Roche キット）とイヌ血漿（使用キット; Accuclot™ D-Dimer; 以後 Sigma キット）の測定例が報告されたが、評価系としての是非は明確にされていない。今回、ラットとイヌ血漿について、ヒト用 Latex 凝集法キットを用いて検討を行った。【方法】以下に述べる各試料に D-dimer Latex を等量加えて、凝集反応の有無を確認した。【結果】Roche キットは、ラットのユーグロブリン (EL) 分画に凝集反応を示し、プラスミン (Plm) による Ca 再加血漿凝固塊溶解液にも反応した。一方、ラット正常血漿、ラットフィブリノゲン (Fbg) 標品および Ca 再加凝固塊上清では陰性～擬陽性の反応を示した。また、ラット Fbg 標品に Plm を添加した溶液についても、擬陽性以上にはならなかった。Sigma キットは、イヌの EL 分画に陽性反応を示し、また Plm による Ca 再加血漿凝固塊溶解液にも反応した。一方、イヌ正常血漿、Ca 再加血漿凝固塊上清とイヌ Fbg 標品には反応しなかった。しかし、イヌ Fbg 標品に Plm を添加した溶液には反応を示した。【結論】Roche キットは、Fbg に対する擬陽性反応に留意すれば、ラットの D-dimer 検出に使用できる可能性を示唆している。また、Sigma キットは、D-dimer に特異的ではないものの、イヌの FDP に対する反応性が示され、凝固・線溶系異常は検出できることを意味している。

Measurements for rat and canine D-dimer in plasma using human clinical latex agglutination reagents

○Naoko YAMAKAKI, Yukiko SASAYAMA, Ikue KITAZAWA, Masaaki KURATA, Yoshimasa HAMADA, Ikuo HORII, Toxicology, Drug Safety Evaluation, Global Research & Development, Nagoya Laboratories, Pfizer Inc.